

腎臓内科

1. スタッフ

医師

科長（教授）	森下 義幸
医員（教授）	大河原 晋
（准教授）	平井 啓之
（講師）	伊藤 聖学
（助教）	植田裕一郎

病院助教

北野 泰佑
矢内 克典

シニアレジデント

8名

大学院生

0名

非常勤医員（講師）

1名

副手

1名

非常勤医員

2名

2. 各診療科の特徴

認定施設

日本腎臓学会研修施設

日本透析医学会認定施設

日本急性血液浄化学会認定施設

専門医

日本内科学会専門医	11名
日本内科学会指導医	3名
日本腎臓学会専門医	4名
日本腎臓学会指導医	4名
日本透析医学会専門医	11名
日本透析医学会指導医	4名

当院の腎臓内科の特徴は、検尿異常患者の精査、慢性腎炎やネフローゼ症候群に対して腎生検を含む検査と治療、慢性腎不全

保存期の管理、内シャント作成・経皮的シャント拡張術（PTA）・腹膜透析カテーテル挿入を含む透析導入・慢性維持透析の合併症治療など、すべての病期の慢性腎臓病患者の治療を総合的におこなうことである。さらに、急性腎不全の管理、術後などに合併する電解質異常の管理など腎臓病全般にわたる総合的治療をおこなっている。

また、中央部門である透析部の維持管理もおこなっている。透析部は血液浄化センターとしての機能も果たしており、透析導入患者や慢性維持透析患者の合併症治療に加え、ICU・CCUでの持続的血液濾過法の管理、単純血漿交換療法、二重膜濾過血漿交換法（DFPP）、血液吸着療法、顆粒球除去療法などの特殊血液浄化療法、血液疾患の治療で行われる血液幹細胞移植時の末梢血幹採取など、幅広い血液浄化療法を管理している。

3. 実績・クリニカルインディケーター

1) 外来、入院患者の内訳

新患患者数は400名、再来患者数は17,088名であった。入院患者は476名であった。入院患者は透析導入患者、腎生検患者、手術患者、ネフローゼ患者、IgA腎症患者、合併症発症透析患者など幅広く腎臓病患者診療をおこなった。

2) 腎生検

2022年の総数は98件であった。

3) 腎代替療法導入

新規腎代替療法導入総数は114名で、血液透析105名、腹膜透析8名、先行的腎移植1名であった。

4) 腎臓内科患者の手術症例

内シャント作成術	112
経皮的シャント拡張術 (PTA)	135
腹膜透析カテーテル挿入術	9
抜去・出口部変更・閉塞解除	14

4. カンファレンス

火曜日午後4時00分から入院患者カンファレンス、午後4時30分から腎生検カンファレンス、医局会、抄読会、木曜日午後4時から透析カンファレンスを行っている。

5. 研究、学会活動など

2022年 原著論文 (英文)

- Hirai K, Shimotashiro M, Okumura T, Ookawara S, Morishita Y. Anti-SARS-CoV-2 spike antibody response to the third doses of BNT162b2 mRNA COVID-19 vaccine and associated factors in Japanese hemodialysis patients. *Kidney Res Clin Pract.* 2024; 23: 121.
- Watanabe Y, Hirai K, Hirata M, Kitano T, Ito K, Ookawara S, Oshiro H, Morishita Y. Steroid-resistant minimal change nephrotic syndrome associated with thymoma treated effectively with rituximab following thymectomy and cyclosporine: a case report. *Case Reports BMC Nephrol.* 2024; 25: 53.
- Yanai K, Kaneko S, Aomatsu A, Hirai K, Ookawara S, Morishita Y. Identification of Messenger RNA Signatures in Age-Dependent Renal Impairment. *Diagnostics (Basel).* 2023; 3: 3653.
- Yanai K, Hirai K, Kaneko S, Mutsuyoshi Y, Kitano T, Miyazawa H, Ito K, Ueda Y, Ookawara S, Morishita Y. The Efficacy and Safety of Dotinurad on Uric Acid and Renal Function in Patients with Hyperuricemia and Advanced Chronic Kidney Disease: A Single Center, Retrospective Analysis. *Drug Des Devel Ther.* 2023; 17: 3233-3248.
- Watanabe Y, Hirai K, Matsuyama M, Kitano T, Ito K, Kobashigawa T, Ookawara S, Morishita Y. A case of renal vein thrombosis associated with autoimmune hemolytic anemia and eosinophilic granulomatous polyangiitis. *Case Reports J Int Med Res.* 2023; 51: 3000605231200272.
- Kaneko S, Ookawara S, Ito K, Minato S, Mutsuyoshi Y, Ueda Y, Hirai K, Morishita Y. Differences between Hepatic and Cerebral Regional Tissue Oxygen Saturation at the Onset of Intradialytic Hypotension. *J Clin Med.* 2023; 12: 4904.
- Ookawara S, Ito K, Ueda Y, Minato S, Kaneko S, Hirata M, Kitano T, Miyazawa H, Hirai K, Morishita Y. Factors affecting intradialytic hepatic oxygenation: Associations between ultrafiltration rate and changes in

systemic blood pressure. *Int J Artif Organs*. 2023; 46: 256-263.

8. Hirai K, Kaneko S, Minato S, Yanai K, Hirata M, Kitano T, Ito K, Ueda Y, Ookawara S, Morishita Y. Effects of roxadustat on anemia, iron metabolism, and lipid metabolism in patients with non-dialysis chronic kidney disease. *Front Med (Lausanne)* 2023; 10: 1071342.

学会発表

第66回 日本腎臓学会学術総会

1. 伊藤聖学, 大河原晋, 渡邊祐作, 睦好祐子, 北野泰佑, 田部井薫, 森下義幸. 血液透析後立位における脳内局所酸素飽和度の変化に関する検討. 2023年6月10日(土). *日本腎臓学会誌*. 2023; 65: 265.
2. 森野諄紀, 矢内克典, 平田桃子, 植田裕一郎, 大河原晋, 森下義幸. かかりつけ医による高尿酸血症を合併したCKD患者への尿酸降下薬使用実態の検討. 2023年6月11日(日). *日本腎臓学会誌*. 2023; 65: 289.
3. 平井啓之, 岡本 航, 植田萌香, 賀来佳男, 大河原晋, 森下義幸. 保存期CKD患者におけるHIF-PH阻害薬(ロキサデュスタット)の腎性貧血に対する有効性と関連因子の検討. 2023年6月9日(金). *日本腎臓学会誌*. 2023; 65: 294.
4. 矢内克典, 野中宏晃, 金子昌平, 青松昭徳, 平井啓之, 森下義幸. 老化腎障害のシグナル伝達の解析. 2023年6月9日(金). *日本腎臓学会誌*. 2023;

65: 307.

5. 矢内克典, 金子昌平, 睦好祐子, 平井啓之, 大河原晋, 森下義幸. かかりつけ医による腎性貧血へのESA, HIF-PHI使用実態の検討. 2023年6月11日(日). *日本腎臓学会誌*. 2023; 65: 329.
6. 野中宏晃, 矢内克典, 平田桃子, 宮澤晴久, 大河原晋, 森下義幸. かかりつけ医による保存期 advanced stage CKD患者へのRAS阻害薬使用実態の検討. 2023年6月11日(日). *日本腎臓学会誌*. 2023; 65: 330.

第53回 日本腎臓学会東部学術大会

1. 永池侑樹, 北野泰佑, 伊藤聖学, 平井啓之, 大河原晋, 森下義幸. 血液透析移行10年後に移植腎に腎盂腎炎を発症した一例. 2023年6月16日(金). *日本透析医学会雑誌*. 2023; 56S: 428.

第68回 日本透析医学会学術集会

1. 大河原晋, 湊さおり, 宮澤晴久, 植田裕一郎, 伊藤聖学, 森下義幸. HD時肝臓内局所酸素飽和度変化に関連する臨床的因子の検討. 2023年6月16日(金). *日本透析医学会雑誌*. 2023; 56S: 449.
2. 平井啓之, 下田代雅子, 園田時男, 奥村俊明, 大河原晋, 森下義幸. 血液透析患者における新型コロナウイルスワクチン3回目接種に対する液性免疫応答および関連因子の検討. 2023年6月16日(金). *日本透析医学会雑誌*. 2023; 56S: 464.
3. 岡本日出数, 勝野 浩, 下山皓太郎, 佐々木峻也, 北野泰佑, 遣田美貴, 清

水納子, 中島章雄, 森本啓太, 森下義幸, 横尾 隆, モルヌピラビル投与後 COVID-19の再燃が考えられた血液透析患者の一症例. 2023年 6月16日(金). 日本透析医学会雑誌. 2023; 56S: 468.

4. 渡邊祐作, 大河原晋, 伊藤聖学, 湊さおり, 植田裕一郎, 吉野義一, 森下義幸. 頸動脈狭窄に対するステント留置前後で脳内局所酸素飽和度を観察し得た血液透析患者の1例. 2023年 6月17日(土). 日本透析医学会雑誌. 2023; 56S: 494.

5. 小藤誠也, 伊藤聖学, 岡田ひとみ, 草浦理恵, 百瀬直樹, 睦好祐子, 北野泰佑, 大河原晋, 森下義幸. 当センターにおける持続的腎代替療法を必要とした COVID-19陽性患者について. 2023年 6月18日(日). 日本透析医学会雑誌. 2023; 56S: 573.

6. その他（アピールする点、ニュース、今後の活動目標）

腎臓内科では医師、栄養士、薬剤師、透析部看護師が医療チームを作り、総合的に腎疾患患者診療を行う体制を構築している。研究では当センターに設置されている循環器病臨床医学研究所オープンラボで、腎疾患領域のマイクロ RNA の解析と遺伝子デリバリーの基礎研究を開始し結果を蓄積している。また臨床研究を中心に慢性腎臓病患者における様々な病態（血圧・尿酸・血糖管・貧血・局所酸素化）と薬理作用について検討をおこなっている。今後これらの研究をさらに発展させていく予定である。